

韓国・釜山の室内射撃場で起きた火災事故は日本人男性観光客7人の犠牲者を出した。いずれも現地の射撃ツアーに参加しているさなかに惨事に見舞われた。海外での実弾射撃は韓国に限らず、米国や東南アジア各国で日本人が大半として押し寄せる人気スポットだが、場所によっては、ズサンな管理の「要注意ゾーン」でもある。

釜山だけじゃない 火災で邦人7人犠牲

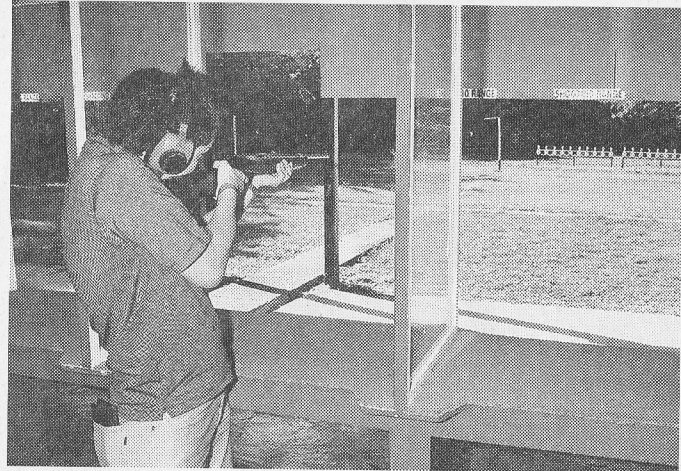


16日、いまだ規制が続く火災があった釜山の射撃場に入るビル（共同）

危ない射撃場は ここにもある

タイ、フィリピン
グアム、サイパン

写真はサイパンの屋外射撃場



暴発しそうな銃渡され

「いろいろな国の射撃場を見てきたが、ボロボロの拳銃を置いて、暴発するんじゃないかと心配するところもある」と話すのは、米国FRP連邦捜査官で銃の取り扱いに詳しいバウンティハンターの荒木秀一氏（45）だ。実弾射撃は日本では禁止されているが、韓国をはじめ、タイやフィリピン、ハワイ、グアム、サイパンなどでは多くの射撃場が存在する。値段は拳銃の場合、10発で30000〜50000円が相場。事前に申し込まなくても飛び込みで利用できる手軽さも売りで、各地の射撃場の客は大半が日本人だという。射撃場はほとんどが個人経営といわれ、その管

控室にはストロブが

射撃場というのは広大な敷地に造られた屋外型から、細長い廊下を並べたような屋内型までさまざま。今回、火災のあった釜山の場合は、店舗が密集して消防車も入りにくい繁華街の雑居ビルの中にあった。火災は、空気中や床にたまっていた火薬の粉じんが引火、爆発した可能性が高まり、「射撃の際に起きる火花が引火につながった」という見方も出ている。ところが、店内では「自由にたばこが吸えた」という日本人客

イエメンで日本人拉致

【カイロ】イエメンの首都サナア近郊で15日、日本人援助関係者1人とイエメン人運転手1人が、地元部族民に拉致された。在イエメンの日本大使館が16日明らかにした。同大使館当局によると、拉致されたのは国際協力機構（JICA）の教育支援事業に携わる50歳以上の男性。イエメン政

を要求している。身代金の要求はなく、政治的背景はないもようだという。日本大使館は本人から携帯電話で連絡があり、拉致を確認。交渉が現在続いているとして、日本人の名前や所属などを明らかにしていない。東京都千代田区にあるJICA本部の担当者「外務省に聞いてください」と繰り返した。また、

イエメンでは昨年5月、西部マリブを旅行していた日本人女性2人が武装した地元部族の男らに誘拐され、翌日解放される事件が起きている。